

令和三年 秋の課題作文・読書感想文

〈塾長講評〉

新型コロナウイルスの感染状況が落ち着きを見せ始めてきました。第六波を引き起こすことなく終息に向かって欲しいものです。当塾としても気を緩めることなく感染防止に努めて参ります。

さて、今秋も課題作文&読書感想文コンテストを開催しました。中学生の課題文では東京二〇二〇オリンピック・パラリンピックの大会ビジョンにも掲げられていたジェンダー平等をテーマに、課題文や資料を読み取った上でそのような社会の実現に必要なことを考えてもらいました。また、小学生向けの推薦図書においてもジェンダーに悩む主人公を題材にした作品を紹介しました。もっとも小学生については推薦図書以外の作品の感想文も歓迎するというスタンスで取り組んでもらっています。そして今回もまた、数多くの力作に巡り合うことができました。

まずは小学生の部から紹介します。金賞受賞作品は太宰治の「人間失格」を読んだ感想文でしたが、「自分が自分をどう思うか、どう感じるかで人生は大きく変わる」という学びを手に入れました。読書を通じて今後の人生の糧となるものを見つけられている点が秀逸でした。また、銀賞受賞作品にも「生きていることは凄い。生きているのだから悲しいことや辛いことがあって当たり前。それでも自分の力で前に進まなければならぬ」「自身のイジメ克服体験を踏まえて」あの時、本当に負けないでよかった。

立ち向かって良かったと心から思う」「幸せになるチャンスを掴むにはその使い方が大切」等、読み手の心に響くような言葉が入っていました。そういう点が素晴らしかったです。

続けて中学生の部です。金賞受賞作品には「偏見を事実と思い込むことが無自覚な差別に繋がる」という力強い主張や『男だから』という言葉に違和感があり、中略、僕という個性を無視されたと感じたからだ」という今回のテーマにまさに合致するエピソードが盛り込まれていました。また、惜しくも受賞は逃したものの、オリンピック女子重量挙げに出場したフランス女子選手の挑戦と絡めてジェンダー平等の難しさを述べていたり、ドクタースマイスのクイズで「医師は亡くなった男性の同性パートナーであったのではないか」という視点を持っていたりする作品もありました。読みながら大いに感心させられた次第です。

課題文でも述べましたが、日本では人口減少が始まっています。そんな日本に幸せをもたらすには男女の区別なく活躍できる世の中にしていかなければなりません。しかし、ジェンダーに関して不寛容な姿勢を持つ人々が多いのも現実です。一説によると不寛容はストレス状態にある人の防御反応だとも言われています。小学生の金賞受賞作品にもあった「どう思うか、どう感じるかで人生は大きく変わる」を取り入れて、ストレス低減につながる考え方をしようと努めてみては如何でしょうか。私自身もぜひそうしていきたいと思います。